

市町村教育委員会教育長懇談会の意見聴取の概要

I 趣 旨

第6次山形県教育振興計画の策定に当たって、35市町村教育委員会の教育長に意見聴取し、計画策定の参考とする。

II 概 要

(1) 聴取期間 平成26年1月24日から2月5日

(2) 聴取方法 県内4地区において教育長懇談会を開催。11月22日の第6次山形県教育振興計画検討委員会資料を説明し、意見を伺う。

III 意見の概要

【基本目標】

1 全体的事項

- 基本目標の考え方に賛同
 - ・ 地域を担う人間を育てていくメッセージを感じた。
 - ・ 今までは、教育は不易な理想を追うものが尊ばれてきたが、山形の未来・地域の未来を、教育はどう責任を負うのかという期待や要請に、まじめに答えている。
- 山形で大切にされてきた価値を基本目標に据えてはどうか。例えば、家庭でつないできた「畏れ」や「敬い」を自分のいのちにつなぐなど。
- 「めざす人間像」と「基本方針」とのつながりがわかるように工夫した方がいい。
- 簡潔に誰もが理解できるようにするため、インパクトのあるテーマを設定すべき。
- 「人づくり」は、他立的な意味での人づくりということではなく、自分づくりとして考えていく必要がある。
- 表記の仕方について
 - ・ 「人財」と表現できないか。(人は材料ではなく、宝物であるという意味から)
 - ・ 溢れるを「あふれる」に、拓くを「ひらく」にしてはどうか。

2 「人間力」について

- 人間力は、インパクトがあり、その考え方についても賛同する。
- 人間力には、いろいろな見方・捉え方があり、その考え方をしっかりと記載して説明していくことが必要である。
 - ・ 包容力とか寛容とか、そういった深さというところを持って押さえない。
 - ・ 自分を磨くという価値と、人のために役立つという志が必要。
 - ・ 人間力の中でも特に大切なのはリーダーシップ。幼児期から育てていくべき。

3 「山形の未来を拓く」について

- 前向きであり、プラスの捉え方ができる。
 - ・ 日本、世界、人類の未来という捉え方もあり、各地方の、市町村のという捉え方もできる。
 - ・ 山形の未来であり、地域の未来である。
 - ・ 未来を拓くということは、地域に貢献すること
- 伝統文化の継承だけでなく、新しい地域づくりなどの動きも入れてはどうか。
(例えば、村山市では、ガールズ農場などのような新しい取組みがある)

【めざす人間像】

1 全体的事項

- 人間像を理解できるように、わかりやすく記載すべき。学校教育の場面では、授業への人間像の反映が必要になってくる。
- 人間「像」を人間「力」とすると、基本目標と一貫性が出てくるのではないか。また、「～続ける人」で統一してはどうか。

2 「いのちをつなぐ人」について

- 「いのちの教育」の取組みは、ぜひとも継続していくべき。
- 「いのちをつなぐ」が具体的にイメージできるよう、説明書きをするべき。

3 「地域とつながり続ける人」について

- 自分の住んでいる地域を愛せない者は、自分を愛せないし、グローバル化の中で誇りを持つこともできない。「地域とつながり続ける人」は非常に大事な視点である。

【基本方針】

1 全体的事項

- 県の教育振興計画であるから、県総合政策との整合性・関連性はもちろんのこと、例えば産業政策など県の施策とのリンクも考慮すべき。その意味では、「知事部局との連携」を記載し、福祉サイドと協力する姿勢を出すことは評価できる。
- 子育てについて、厚生労働省と文部科学省の施策的な動きを捉える必要がある。他の部局との関連をもっと入れていく必要がある。
- 「いじめ」については、しっかり項目として起こしたほうがよい。また、枠としては、基本施策Ⅰに入れた方がいいのではないか。また、いじめの対策はいのちの大切さを教えるだけでなく、いのちを守るという視点も大事である。
- スポーツが二つに分かれるのは違和感がある。一本の基本方針にまとめた方がわかりやすい。
- 生涯学習・社会教育について、学校教育と違い、基本方針にバラバラに出てくるため印象が薄い。社会教育の役割をもっと前面に出すべきではないか。
- 山形県の子どものよさをしっかりと全県で認識し、よさを伸ばす施策を講じるべき。
- 県の教育施策の方向性をきめるシンクタンクのような機能が必要。教育委員会制度の在り方等の再構築も検討していかなければならない。

- 表記の仕方
 - ・ 数値化できるものは、数値化すべき。
 - ・ 「インクルーシブ教育」「土曜授業」「学力・学習状況調査の結果の公表」など、今、全国や県でも、注目されているについて、推し進める印象を受けるなど、市町村や学校が不安にならないような表記をお願いします。

2 基本方針Ⅰ「いのちを大切に、生命をつなぐ教育を推進する」について

- 「いのちの教育」について、家庭の取組みが記載されていることは評価できる。
- 「いのちの教育」と「豊かな心」は切り離せないのではないか。

3 基本方針Ⅱ「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」について

- “高等学校の教育計画に位置づける”という記載があるが、小・中学校についての記載がない。記載があった方がインパクトがある。
- 高校生が主体となって自分たちの土地のものを残していくことの意義は大きい。
- 学校の中で伝統文化継承に取り組むことが明記されると取り組みやすい。

4 基本方針Ⅲ「豊かな心と健やかな体を育成する」について

- 家庭という観点をもっと大きく取り扱うことが必要である。
 - ・ 家庭の教育力の充実を図るため、福祉や児童相談所等と連携の視点が大切。
 - ・ “親の教育”や、その施策について踏み込んで書いた方がいい。
 - ・ 情操面での課題が大きい親世代への対応。家庭教育への情操教育を
 - ・ 今の親に対応する、いのちをつなぐ家族観や家庭観を持たせる施策を。
 - ・ 家庭に課題がある子どもは、土台がしっかりしていないなど、学校生活へも影響する。
- 幼児教育について、就学前が見えないことが多い。どこの部局で担うにしても、人の研修に力を入れる必要がある。
- 読書活動を充実するため、学校司書等の子どもと関わり合える人の配置が必要である。
- 環境や自然での教育、自然への畏敬の部分が弱い。自然の家の整備の具体目標を
- 食育については、幼・小に重点化してはどうか。郷土料理”“地域の特色を生かした料理”といった表現を加えてほしい。

5 基本方針Ⅳ「確かな学力と時代の変化に対応できる能力を育成する」について

- コミュニケーション能力については、基本方針Ⅲに入れてはどうか。
- 小学校英語の教科化への対応について、外部からの人材活用は限度がある。英語の活用能力など、教員採用の段階から対策を考える必要がある。
- ICT教育については、県内一律の取組みは難しい。地域性や地域における情報教育上の環境を考え進めてほしい。ICT教育を進めるには、指導できる教員の養成が欠かせない。
- 高等教育機関との連携の中で、大学生と地域との連携についても記載をすべきではないか。

6 基本方針Ⅴ「特別なニーズに対応した教育を推進する」について

- 特別支援教育に力を入れている点を評価する。
- インクルーシブ教育という考え方が出てきており、通常の学級で担任が一人で様々な子どもを見るのは大変。この考えを進めるのであれば、国で人の配置を進める必要がある。国に対す

る要望を。

- 就学前からの支援について、位置付けがなく、教育・福祉どちらの位置づけがあいまい。

7 基本方針Ⅵ「魅力に溢れ、安心・元気な学校づくりを推進する」について

- 優秀な教員が関東方面へと流れている。講師に優秀な方が多い。他県では講師について一次試験を免除としているところもある。採用の制度について踏み込んでどうか。
- 子どもたちだけではなく、教員も人間力が必要。
- 過小規模の小・中学校の在り方については、県の方針が見えない。学校は、地域コミュニティの核となっていてなくすことは困難もあるが、一方で、教員の質の低下という懸念もあり、市町村にしてもジレンマがある。

8 基本方針Ⅷ「活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める」について

- 地域の人材を育成しないと、活性化は進まない。リーダーの育成が不可欠である。
- 公民館行事のほとんどは、小学校と関わる行事を行っており、小学校が統合等でなくなると、行事自体もできなくなる。
- 高校生までは地域との関わり（地域行事・ボランティアへの参加）があるが、その後、保護者になるまでの間で途切れてしまうので、そこを補う施策について盛り込んでほしい。
- コミュニティの形成については、かつて派遣社会教育主事の制度があったが、現在は市町村職員にその役割がまかせられてしまっている。“学校の先生が地域の社会教育に目を向ける”といった文言について盛り込めないか。
- 青年層をどう育て、青年リーダーをどう育てていくのが課題。高校・大学卒業後地元に残り、地元に戻り地元を支える青年を育てることが大事である。
- 団塊の世代の力の活用も重要な視点ではないか。成人の育成の部分も重要視すべきである。

【その他】

- 目標指数をどう捉えていくかが重要である。指数を達成することが目的化してしまうこともある。また、指数を達成しても、学校で本当にめざす姿になっているのか不安や疑問もある。例えば、市町村において、食育の計画策定率が向上しても、その内容が各学校に浸透しなければ意味がない。
- 「～を教えていく。～組織をつくっていく。」という語尾表現よりも、「～を身に付けさせる。～を覚えさせる。」などの表現の方が、今のニーズに合っているのではないか。
- 表紙に置く言葉は、象徴的なものに。短い単語でいい。インパクトのあるもの。
- コラムを挟むことで、補足説明し、ストーリーとしての流れを作るといい。読み手の理解を助けるものとしても効果的である。
- 県民が読み手となることを意識し、なるべくカタカナ文字や専門用語を使用しない工夫や説明を加えるなどが必要。
- 今回から、実施計画（工程表）を作成するのは、一步前進。なお、記載は単純化で、わかりやすいものでいい。
- 現場教員等への説明を、今後丁寧に展開してほしい。
- 特別支援教育や土曜授業、学校支援地域本部、学校児童クラブにしても、裏づけとなる財源を確保し、ある一定の教育水準を維持できる方針を打ち出してほしい。